

投稿規定の詳細

学会誌においては、掲載される論文の書式が統一されていることが要求されます。しかし、論文として投稿される原稿の中には本会誌の書式に適合していないものがしばしば見受けられます。以下の投稿規定の詳細の中の、「11. 原稿作成要領」と「12. 引用文献の記載法」を熟読されることを薦めます。とくに、他誌に投稿するつもりで作成した論文の場合、本会誌の書式に適合させるように注意してください。書式が適合していない論文は、いったん返却し、再提出を求めることになります。

1. 原稿の種類

総説 (Review), 論説 (Editorial), 一般原著論文 (Regular original article), 短報 (Short communication), 症例・事例報告 (Case report), 資料 (Note) に区分する。これら以外に編集委員会がとくに認めた場合には特別寄稿を掲載することがある。

論説とは、「健康医学上の課題に関する新規な意見・主張」、短報とは、「断片的であるため原著論文としてまとめることはできないが、公表することが健康医学研究の発展に寄与するもの」、症例・事例報告とは、「臨床・介護・看護・保健活動等の事例で、公表することが健康医学の発展に寄与しうるもの」、資料とは、「会員に参考となる社会科学・自然科学に関する記録など」をそれぞれさす。特定のキーワードを用いて検索した文献を解析する系統的レビュー (Systematic review), もしくはメタ解析 (Meta-analysis) は原則として一般原著論文に含める。

2. オリジナリティ

一般原著論文, 短報, 症例・事例報告, 資料の内容は、他紙に発表済・投稿中でないものに限る。

3. 投稿資格

依頼総説を除き、投稿者 (共著者含む) は、原則として、全員が日本健康医学会会員に限る。

4. 査読

原稿は、編集委員会で査読し、採否を決定する。

5. 著作権

本誌に掲載された原稿の著作権は、本会に属する。

6. 倫理上の配慮

ヒトを対象とした研究、および爬虫類以上の実験動物を用いた研究の場合は、倫理上の配慮の具体的内容を論文中の「方法」に明記する。

7. 論文の言語

和文、英文のいずれの原稿も受け付ける。原稿中の英文 (アブストラクト含む) は、Native speaker の校閲を受ける (証明書を添付する)。

8. 投稿方法

投稿は、電子投稿・郵送のいずれも受け付ける。

①電子投稿の場合、原則として Word 形式の単一ファイルとして作成した電子原稿を、下記の日本健康医学会雑誌編集委員会のメールアドレスに電子メールの添付書類として送付する。図表や写真は引用文献

のあとに1ページに1つずつ貼付する。図についてはPDF形式、写真についてはJPEG形式のファイルも送付する。表はWordの中で作成しても、Excelで作成したものを貼付しても構わないが、Excelで作成した場合はExcelのファイルも送付する。投稿後1週間以上経ても返信のない場合は、事務局に連絡を入れる。表については可能な限り縦罫線の使用を控える。

②郵送による投稿の場合は、プリントアウトした原稿を1部、および電子原稿のファイルを保存したメディアを下記の編集委員会宛に封書で送付する。

〒151-0053

東京都渋谷区代々木1-52-4 ベルテ南新宿304

日本健康医学会雑誌編集委員会

E-mail : ando@nodai.ac.jp

9. 掲載料

原則として刷り上がり4頁（図表等を含む）までは無料掲載とするが、これを超過する分は実費を徴収する。刷り上がり4頁の目安は、図表を含め、和文で8000文字程度、英文で16000文字程度である。

10. 別刷

別刷に代えて掲載論文のPDFファイルを責任著者に無料で配布する。印刷された別刷を希望する場合は、必要な部数を原稿の第1頁に朱書きする。別刷り作成に必要な経費は著者負担とする。

11. 原稿作成要領

①原稿は和文・英文ともに10から12ポイントの文字でA4用紙に1ページ1000文字を目安に印字する。用紙の上下左右には25mm以上の十分な余白をとり、タイトルを含めて連続した行番号を付記する。英文は要旨、本文ともにすべて半角文字を使用する。

原稿作成において、アプリケーションに付随する箇条書き、一文字下げなどの機能は使わない。引用文献においても箇条書き機能は使わない。

②第1頁には次の項目を、和文原稿は和文と英文の両方、英文原稿は英文のみで記載する。タイトル、著者（全員をフルネームで）、全員の所属、論文の種類、連絡先住所、電話番号、ファクス番号、電子メールアドレス。

著者のうち責任著者（Corresponding author）には氏名横に※印をつける。

異なる研究機関に所属する著者の共著論文の場合、最初に所属機関を示す肩番号を付した著者名をまとめて記し、ついで各著者の所属名を肩番号の順番に従って記載する。

所属は論文に記されている研究が行われた時点のものを記載する。研究実施時と論文投稿時で所属が異なる場合は、研究実施時の所属を優先し、論文投稿時の所属は脚注にして、和文の場合は「現在：○○」、英文の場合は「Present address：○○」のように記載する。

③和文、英文、いずれも、第2頁には要旨（Abstract）とキーワード（3-7語）を記載する。なお要旨は、緒言、方法、結果、考察などの項目に分けずにまとめる。

④第3頁に、和文原稿の場合は英文タイトルおよび要旨、英文原稿の場合は和文のタイトルおよび要旨を記載する。

⑤本文は第4頁以降に記述する。原著および短報の章立ては原則として以下のとおりとする。緒言（Introduction）、方法（Methods）、結果（Results）、考察（Discussion）、文献（References）。結果と考察を1つの章にまとめてもよい。研究目的や用語の定義は緒言、倫理上の配慮は方法に含め、結論の章はなくても構わない。

⑥図表は、文献も含めた本文のあとに、1頁に1つずつ記載する。

⑦和文原稿の図表は和文、英文のいずれで作成しても構わないが、ひとつの論文の中で統一する。

⑧図および写真は原則としてモノクロとする。カラー印刷希望の場合は、その旨を記載する。なお、カラー

印刷にかかる費用は、著者負担とする。

⑨引用文献は、本文中の該当個所に片カッコに入れた番号1)を肩文字として順につけ、文献の欄に番号順に記述する。引用文献の記載は後述の「引用文献の記載法」に従う。

⑩原稿中の単位は、原則として国際単位系(SI)に従う。ただし、ppm, dL, kcal, mmHgなど、慣用的に広く使われている単位の使用は構わない。なお、ℓ(リットル)は、数字の「1」との誤認を避けるため、大文字の「L」を使用する。

⑪略称は、原則として、WHO(世界保健機関)、ICU(集中治療室)のように一般に認知されているものも含めて、要旨と本文、それぞれの初出の箇所ですく正しく定義する。論文の表題に略称を使用することは、原則として認めない。

⑫和文において、漢字を用いるのは「名詞」、「動詞」、「形容詞」、「形容動詞」とし、「副詞」、「連体詞」、「接続詞」、「接頭語」、「接尾語」、「助動詞」などは原則として平仮名書きにする。すなわち、「及び」、「並びに」、「例えば」、「～等」などではなく、「および」、「ならびに」、「たとえば」、「～など」と記載する。ただし、法律など、元の文書が漢字書きしているものを直接に引用する場合は、引用元の記載に従う。

⑬英文タイトルにおいて、冠詞(a, an, the)、等位接続詞(and, but, or, not, yet, for, soなど)、前置詞(at, by, down, for, from, in, on, to, withなど)以外の単語は、最初を大文字にする。等位接続詞や前置詞であっても5文字以上の場合(about, above, before, after, betweenなど)は、最初の文字を大文字にする。従属接続詞(if, although, because, unlessなど)、関係代名詞(that, which, whoなど)は最初を大文字にするが、これらをタイトルに使用することは原則として避ける。

⑭本文はすべて文章で記す。箇条書きは用いない。

⑮括弧(括弧の種類は問わない)書きが連続する場合、「 」, 「 」のように括弧と括弧の間にカンマを入れる。

⑯謝辞を除いて、本文においては原則として「していただいた」のような敬語は用いない。

12. 引用文献の記載法

A. 学術雑誌に掲載されている論文

①原則として、以下の例のように、『著者名(全員):論文タイトル.雑誌名(略称)巻数(号数は必要な場合のみ):掲載ページ(開始-最終),刊行年』とする。電子ジャーナルにおいて、ページ数ではなく論文の番号のみが存在する場合は、雑誌名の後を『巻数(号数):論文番号,doi:識別記号』とする。早期公開されている論文の場合も「doi:識別記号」を記載する。

- 1) 原田小夜,清水めぐみ:高齢精神障害者の地域ケアにおける課題—地域ケア個別会議に提出された困難事例から—。日健医誌 26:257-264,2017
- 2) Johnson GW, Evance EC: Zinc absorption in rats fed a low-protein diet and a low-protein diet supplemented with tryptophan or picolinic acid. J Nutr 125:1081-1089,1999

②著者が10名を超える場合は5名まで示し、5人目の著者のあとに、英文論文の場合は「et al.」、和文論文の場合は「他」と記す。英文論文の著者は、Yoshida Mのようにfamily nameを前にし、first nameは大文字のイニシャルのみとする。Second name以降がある場合は、Johnson GWのようにピリオドを挟まずsecond name以降のイニシャルのみをfirst nameのイニシャルに続ける。著者と著者の間はカンマでつなぎ、最終著者の前にandはいれない。

③著者名と論文のタイトルとの間はコロロン(:)とする。論文タイトルは省略せずに全文を記す。英文論文の場合、大文字にするのはタイトルの先頭の1文字のみとする。ただし副題が添えられている場合は、副題の先頭文字も大文字とする。

④タイトルと雑誌名の間はピリオドとする。雑誌名は必ず略称を記載する。和文雑誌は医学中央雑誌、英文雑誌はPubmedが採用している略称に準じる。ただし、本会会誌の略称は「日健医誌」とする。特定の大学や研究機関が刊行している紀要的なもので、一見しただけでは紀要であることがわからないものは、雑誌名の後に発行元の研究機関名を括弧書きで入れる。雑誌の略称が不明の場合はフルネームを記す。

⑤雑誌名と巻数の間はカンマやピリオドなどは入れずに半角空ける。

⑥号数は、号ごとにページが振り直されている場合にのみ、巻数のあとに空白を入れずに『32 (3)』のように括弧書きで入れる。

⑦巻数と開始ページの間は、コロンとする。

⑧最終ページと刊行年の間は、カンマとし、刊行年のあとにピリオドは入れない。

B. 単行本の場合

①引用の最小単位は章または節とする。数行単位の記述を切り取って引用することは、執筆者の意図と異なることを引用するリスクがあるので避ける。とくに人文科学や社会科学系の書籍の場合、書籍全体で1つの思想が形成されていることがあるので、部分引用は避ける。1つの本の複数箇所を引用する場合は本全体を引用する。

②解説書やテキストなど、版が重ねられているものは引用した版を必ず記載する。増刷されている場合は、引用する版の初刷の年を記載する。

③章または節単位の引用であり、章または節の執筆者が明らかな場合は、原則として、以下の例のように、『引用した章または節の執筆者名：章または節のタイトル. 書籍の名称, 編者名, pp 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。

3) 左右田健次：酵素と微量元素. 微量元素と生体, 木村修一, 左右田健次編, pp 110-120, 秀潤社, 東京, 1987

4) Bremner I, May PM : Systemic interactions of zinc. Zinc in human biology, Mills CF ed, pp 95-108, Springer-Verlag, London, 1989

④編者が存在し、章または節単位の引用であるが、章または節の執筆者が明らかでない場合は、原則として、以下の例のように『編者名：章または節のタイトル. 書籍の名称, pp 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。

5) 杉野佳江編：清潔援助の実際 洗髪・結髪. 標準看護学講座 13 基礎看護学 2 日常生活と看護技術 第5版, pp 395-399, 金原出版, 東京, 2003

⑤1人または複数の著者で全体が執筆されている場合は、原則として、以下の例のように、『著者名：書籍の名称, 全ページ数 pp, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。特定の章または節を明示することが読者に親切と考えられる場合は、『著者名：章または節のタイトル. 書籍の名称, pp 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とする。

6) 広田すみれ：読む統計学 使う統計学 初版, 234pp, 慶應義塾大学出版会, 東京, 2005

C. Web ページの場合

①Web ページの引用は、公的機関の報告書などのように、公表ページの存在が半永久的に保障されている場合に限定する。私的な HP やブログなどの引用は、原則として認めない。大学、研究所、大企業などの HP でも、随時更新されて記事が消滅する可能性がある場合は引用を避ける。報告書の場合、印刷されたものが公的に存在する場合は、web ではなく印刷物のほうを引用する。

②Web ページの引用は、原則として、以下の例のように、『Web を運用している機関名：報告書（あるいは記事, 統計書）名. pp 引用する部分の開始ページ-最終ページ（または、引用している図表の番号, あるいは報告書の全ページ数など）, 引用する記事などの名称（なくても構わない）, 報告書が公開された年または該当の web ページが更新された年月日（判明している場合）, web のアドレス（括弧書きでアクセス日）』とする。web アドレスのリンクは外しておく。

7) 厚生労働省：平成 29 年国民健康・栄養調査報告. pp 57-100, 第 1 部 栄養素等摂取状況調査の結果, 2018, <https://www.mhlw.go.jp/> (2020 年 10 月 1 日アクセス)

引用文献の書き方について以下に再度まとめる

①印字の共通原則

和文の場合、カンマ、コロンの、ピリオドは全角文字で続きに空白は入れない。巻数、ページ数、出版年は半角文字とする。

英文の場合、文字はすべて半角とし、カンマ、コロンの、ピリオドは続きを半角空ける。

②論文の場合

『10名以内の場合は全著者名（著者と著者の間にはカンマ）：論文タイトル、雑誌名（原則として医学中央雑誌またはPubMedでの略称）巻数（雑誌名と巻数の間を半角空ける。号数は号ごとにページを振り直している場合のみ、12(4)のように巻数の後に空白を入れずに半角のカッコに入れて記す）：ページ（最初と最後を24-29のように示す）、年（最後にピリオドは入れない）』

③単行本場合

(1) 書籍の一部を引用：引用の最小単位は節または章とする。

『章または節の全著者名（著者と著者の間にはカンマ）：章または節のタイトル、書籍名（副題および版数も記す）、編者名、ページ（最初と最後をpp24-29のように記す）、出版社名、出版社の所在地（州や府県名ではなく都市名、ただし東京23区は東京と記す）、出版年（引用する版の初刷の刊行年を記す。最後にピリオドは入れない）』

(2) 書籍の全体を引用

『著者名（著者と著者の間にはカンマ）：書籍名（副題および版数も記す）、全ページ数（250ppのように記す）、出版社名、出版社の所在地（都市名）、出版年（引用する版の第1刷の出版年を記す。最後にピリオドは入れない）』

質的研究の投稿についてお願い

本会誌には、インタビューや文献から収集した短文をコードとして示し、これをサブカテゴリ、カテゴリへと集約していく質的研究（コード、カテゴリなどの呼称は質的研究の手法によって様々です）を扱ったものがしばしば投稿され、掲載されています。

これら質的研究では、結果の章に収集されたコードと集約されたカテゴリが示されることが多いようです。しかし、カテゴリ化にはすでに著者らの考察が反映されており、これを結果として示すことには疑義があります。質的研究を行う人が会員の大半であれば、そのような示し方も認められるのですが、本会にはそうではありません。

もう一点、質的研究においては、しばしば集約のプロセスなどについて、「専門家のスーパーバイズ」を受けた、あるいは「著者間で検討した」という記述がありますが、これらの記述も他分野からはきわめて奇異に感じます。

そこで、編集委員長から、質的研究を行い、その結果を投稿される方に以下のお願いをしたいと思います。

質的研究における「結果」では、収集したコードを示すのみとし、これをカテゴリに集約するプロセスは「考察」に含めてください。

概念枠組みについては考察に含めてください。

上記が難しいと感じられる場合には、結果と考察を分けずに執筆し、概念枠組みを示す場合は結果と考察の冒頭に配置されることを勧めます。

「専門家のスーパーバイズ」の表現に関して、スーパーバイズされた方を共著者に含める、あるいはそのお名前を謝辞に出すことを検討してください。「著者間で検討した」に関しては、どのような研究論文であっても著者間で検討されることは当然であり、記述に意味はないと思います。